

検査情報月報



2012
2013
3月

横浜市衛生研究所

平成24年3月号 目次

【トピックス】

| | |
|------------------------------|---|
| アレルギー物質を含む食品の検査結果(その3) | 1 |
| 遺伝子組換え食品の検査 | 3 |
| 流通魚中のPCB検査 | 4 |

【感染症発生動向調査】

| | |
|------------------------------|---|
| 感染症発生動向調査委員会報告 平成24年2月 | 5 |
|------------------------------|---|

【情報提供】

| | |
|-------------------------------|---|
| 衛生研究所WEBページ情報(平成24年2月分) | 9 |
|-------------------------------|---|

アレルギー物質を含む食品の検査結果(その3)

平成13年4月、食物アレルギーを持つ人の健康危害を未然に防止する観点から、アレルギー物質(特定原材料)を含む食品に表示が義務付けられました。現在、特定原材料として卵、乳、小麦、そば、落花生、えび、かきの7品目が指定されています。

平成23年10月に健康福祉局食品専門監視班が市内の製造所、小売店等にて収去した食品について、そばの検査、乳の検査、卵の検査を行いました。また、平成23年10月、平成24年1月に各区福祉保健センターが小学校にて収去した特定原材料除去食について、卵と乳の検査を行いました。これらの検査結果を報告します。

1 そばの検査

市内の製造所や小売店にて収去したうどん8検体について、そばの検査を行いました。

ELISA法によるスクリーニング試験の結果、2検体で陽性(10ppm以上)となりました。その他の6検体は陰性(10ppm未満)でした(表1)。

スクリーニング試験で陽性となったうどん2検体についてPCR法による確認試験を行ったところ、結果は陽性でした。調査の結果、これら2検体のうち1検体(生めん)は、そばと同一の製造ラインを使用していました。もう1検体(ゆでめん)は、そばと同一の釜で麺をゆでていました。2検体のうどんで「そば陽性」となった原因は、うどんの製造工程中にそばが微量混入したためと考えられました。

表1 そばの検査結果(平成23年10月分)

| 食品 | スクリーニング試験 | | 確認試験 | |
|-----------|-----------|-----|------|-----|
| | 検体数 | 陽性数 | 検体数 | 陽性数 |
| うどん(生めん) | 2 | 1 | 1 | 1 |
| うどん(ゆでめん) | 6 | 1 | 1 | 1 |
| 合計 | 8 | 2 | 2 | 2 |

2 乳の検査

市内の製造工場(乳を含む製品も製造)にて収去した菓子類3検体(原材料名に乳の表示なし)、市内営業所で収去した調味料1検体(原材料の一部に乳を含むと表示あり)について、乳の検査を行いました。

ELISA法によるスクリーニング試験の結果、すべて陰性(10ppm未満)でした(表2)。

表2 乳の検査結果(平成23年10月分)

| 食品 | スクリーニング試験 | | 確認試験 | |
|-----|-----------|-----|------|-----|
| | 検体数 | 陽性数 | 検体数 | 陽性数 |
| 菓子類 | 3 | 0 | 0 | 0 |
| 調味料 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 4 | 0 | 0 | 0 |

3 卵の検査(鶏肉の汚染実態調査)

市内の鶏肉加工業者、精肉店等で収去した鶏の筋肉部(もも肉、ひき肉)、内臓(肝臓、未成熟卵胞)について、卵の検査を24検体行いました。

ELISA法によるスクリーニング試験の結果、鶏もも肉3検体、鶏の肝臓3検体、未成熟卵胞1検体で陽性(10ppm以上)となりました。その他の17検体は陰性(10ppm未満)でした(表3)。

スクリーニング試験で陽性となった7検体について、ウェスタンブロット法による確認試験を行ったところ、結果は全て陽性でした。原因については現在調査中です。

表3 卵の検査結果(平成23年10月分)

| 食品 | スクリーニング試験 | | 確認試験 | |
|---------|-----------|-----|------|-----|
| | 検体数 | 陽性数 | 検体数 | 陽性数 |
| 鶏もも肉 | 11 | 3 | 3 | 3 |
| 鶏ひき肉 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| 鶏の肝臓 | 10 | 3 | 3 | 3 |
| 鶏の未成熟卵胞 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 合計 | 24 | 7 | 7 | 7 |

4 卵と乳の検査(学校給食)

市内小学校で収去した卵もしくは乳除去給食(加熱処理品)について、卵の検査を32検体、乳の検査を10検体行いました。

ELISA法によるスクリーニング試験の結果、すべて陰性(10ppm未満)でした(表4)。

表4 卵と乳の検査結果(平成23年10月、平成24年1月分)

| 食品 | スクリーニング試験 | | 確認試験 | |
|------------------|-----------|-----|------|-----|
| | 検体数 | 陽性数 | 検体数 | 陽性数 |
| 加熱処理品(スープ類):卵の検査 | 32 | 0 | 0 | 0 |
| 加熱処理品(スープ類):乳の検査 | 10 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 42 | 0 | 0 | 0 |

※ ELISA法によるスクリーニング試験は、抗原抗体反応を利用して食品中に含まれる特定のタンパク質(アレルゲン)を検出する方法ですが、食品の加工度合いや使用原材料によっては、偽陽性となる場合があります。そのため、スクリーニング試験で陽性となった場合は確認試験を行っています。確認試験にはウェスタンブロット法とPCR法の2種類があります。卵、乳については、電気泳動によりタンパク質を分子量で分離して抗原抗体反応を行うウェスタンブロット法を、また、小麦、そば、落花生、えび、かにについては、特異的なDNA領域を増幅して検出するPCR法を用いて確認しています。

【 検査研究課 食品添加物担当 】

遺伝子組換え食品の検査

遺伝子組換え食品は、内閣府にある食品安全委員会で安全性に問題ないと判断、承認され、厚生労働省から公表されたものが国内で流通可能になります。

検査は、承認済みのものについては定量検査(食品中に遺伝子組換え体がどのくらい含まれているかを調べる検査)を行います。一方、未承認のものについては定性検査(食品中に遺伝子組換え体が含まれているかを調べる検査)を行います。

今回は、平成24年1月に、各区福祉保健センターが収去した計20検体について、遺伝子組換え食品の定量検査と定性検査を実施しました。

1 定量検査

豆腐6検体についてラウンドアップ・レディー・大豆^{*1}を検査しました。その結果、いずれも混入率は5%以下であり、違反検体はありませんでした(表1)。

表1 ラウンドアップ・レディー・大豆の検査結果

| 品名 | 原産国 | 検体数 | 混入率5%を超える検体数 |
|----|-----|-----|--------------|
| 豆腐 | 日本 | 6 | 0 |

^{*1} ラウンドアップ・レディー・大豆は、除草剤耐性を持つ大豆の品種で、日本では平成13年に承認されました。承認済みの遺伝子組換え食品は、混入率が5%を超えると表示義務が生じます。そのため、検査では混入率が5%を超えているかどうかを調べます。

2 定性検査

米加工品14検体について63Btコメ、NNBtコメ、CpTIコメ^{*2}の定性検査を行いました。その結果、いずれも不検出であり、違反検体はありませんでした(表2)。

表2 63Btコメ、NNBtコメ、CpTIコメの検査結果

| 品名 | 原産国 | 検体数 | 検出数 |
|---------|------|-----|-----|
| 麺類 | 日本 | 3 | 0 |
| | タイ | 1 | 0 |
| | 台湾 | 1 | 0 |
| | ベトナム | 1 | 0 |
| 米粉 | 日本 | 4 | 0 |
| ライスペーパー | 日本 | 3 | 0 |
| せんべい | 日本 | 1 | 0 |
| 計 | | 14 | 0 |

^{*2} 63Btコメ、NNBtコメ、CpTIコメは、いずれも害虫抵抗性を持つ米の品種で、日本では未承認であるため輸入・販売等が認められていません。なお、CpTIコメについては、新たに厚生労働省より検査法が示されたことから、今回から検査を開始しました。

流通魚中のPCB検査



平成23年5月及び11月に中央卸売市場で収去した市内に流通する魚介類15種20検体について、PCBの検査を行いました。

その結果、1検体からPCBを検出しました(表)。しかし、検出された値は暫定的規制値以下でした。

表 PCBの検査結果

単位:ppm

| 食品の種類 | | 検体数 | 検出件数 | 結果 | 暫定的規制値 |
|------------------|-------|-----|------|------|--------|
| 遠洋沖合魚介類 (可食部) | カツオ | 1 | 0 | 不検出 | 0.5 |
| | ゴマサバ | 1 | 0 | 不検出 | |
| | ニシン | 1 | 0 | 不検出 | |
| | ヒラメ | 1 | 0 | 不検出 | |
| | マイワシ | 2 | 0 | 不検出 | |
| 内海内湾魚介類 (可食部) | アカカマス | 1 | 1 | 0.01 | 3 |
| | イサキ | 1 | 0 | 不検出 | |
| | オゴ | 1 | 0 | 不検出 | |
| | クロソイ | 1 | 0 | 不検出 | |
| | サワラ | 3 | 0 | 不検出 | |
| | シロガイ | 1 | 0 | 不検出 | |
| | ハウボウ | 1 | 0 | 不検出 | |
| | マアジ | 3 | 0 | 不検出 | |
| | マダイ | 1 | 0 | 不検出 | |
| | メダイ | 1 | 0 | 不検出 | |
| | 計 | 20 | 1 | — | |

(検出限界 : 0.01ppm)



PCB測定機器

ガスクロマトグラフ装置(電子捕獲型検出器付)

【 検査研究課 微量汚染物室 】

感染症発生動向調査委員会報告 2月

《今月のトピックス》

- インフルエンザ警報が発令され、流行が継続中です。
- 感染性胃腸炎が神奈川区で警報レベルです。
- マイコプラズマ肺炎の報告が昨年と比べて増加が続いています。

全数把握疾患

<レジオネラ症>

1件の肺炎型の報告がありました。共同浴場等の利用はありませんでした。さらに感染経路等調査中です。

<後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)>

1件の無症候期の報告がありました。国内での同性間性的接触による感染が推定されています。

<破傷風>

1件の報告がありました。国内での創傷感染が推定されています。

<風しん>

1件の小児例の報告がありました。予防接種歴1回あり、風しんIgM上昇を認めています。

定点把握疾患

平成24年1月23日から平成24年2月19日まで(平成24年第4週から平成24年第7週まで。ただし、性感染症については平成24年1月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成24年 週一月日対照表

| | |
|------|--------------|
| 第 4週 | 1月23日～29日 |
| 第 5週 | 1月30日～ 2月 5日 |
| 第 6週 | 2月 6日～12日 |
| 第 7週 | 2月13日～19日 |

1 患者定点からの情報

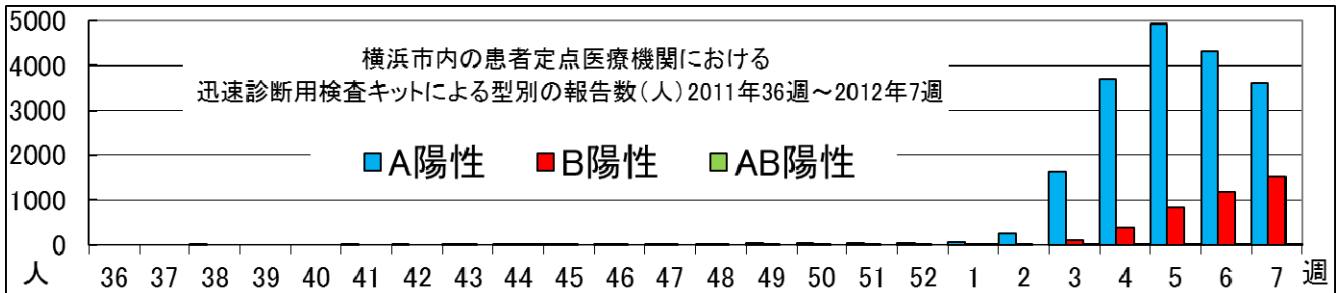
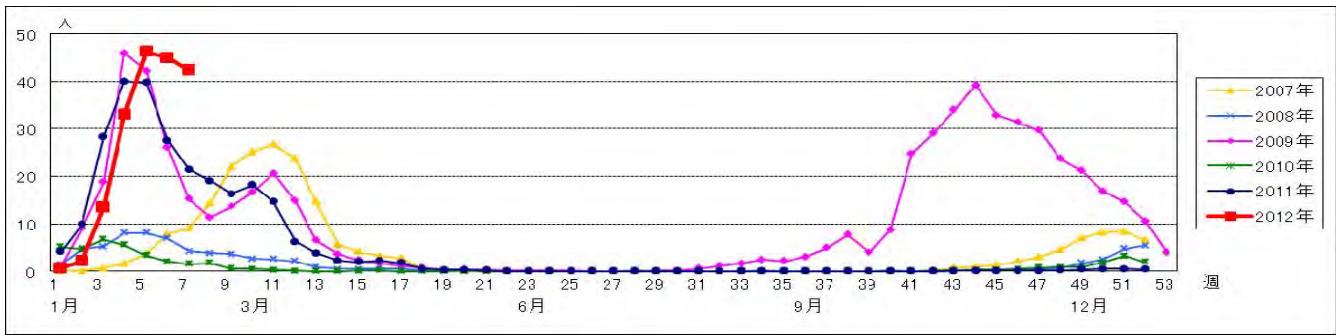
市内の患者定点は、小児科定点:92か所、内科定点:60か所、眼科定点:19か所、性感染症定点:27か所、基幹(病院)定点:3か所の計201か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

<インフルエンザ>

第4週に市全体で定点あたり33.02となり、警報発令基準(定点あたり30.00)を超えました。第4週での警報発令は昨シーズンと同時期です。その後第5週から3週間連続で40.00を上回る流行が継続しており、第7週では42.28となっています。迅速キットの結果は徐々にB型が増加し、第7週では3割ほどがB型です。横浜市衛生研究所における、定点医療機関からのウイルス検出結果では、AH3型67件(72.8%)、B型(山形系統)9件(9.8%)B型(ビクトリア系統)8件(8.7%)、B型(解析中)8件(8.7%)でした。また、市内で分離されたAH3型ウイルス68株のワクチン株に対する抗原性を調べたところ、HI試験で、4倍が5株(7.4%)、8倍が40株(58.8%)、16倍が23株(33.8%)でした。

◆横浜市衛生研究所:インフルエンザ流行情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/influenza/influenza-rinji-index2011.html>

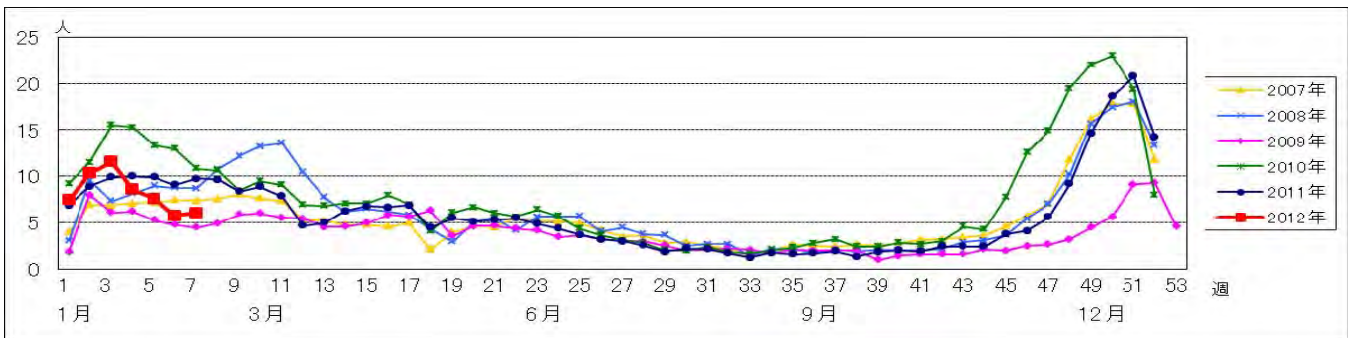


< 感染性胃腸炎 >

市全体で昨年末に流行がみられましたが、第7週では6.01と落ち着いています。しかし、神奈川区では徐々に低下傾向にあるものの、第7週で12.83と、終息基準値の12.00をわずかに上回っており、警報レベルが継続しています。予防には手洗い、便や吐物の適切な処理と消毒、食品の十分な加熱が重要です。ノロウイルスの消毒には次亜塩素酸による消毒が有効です。

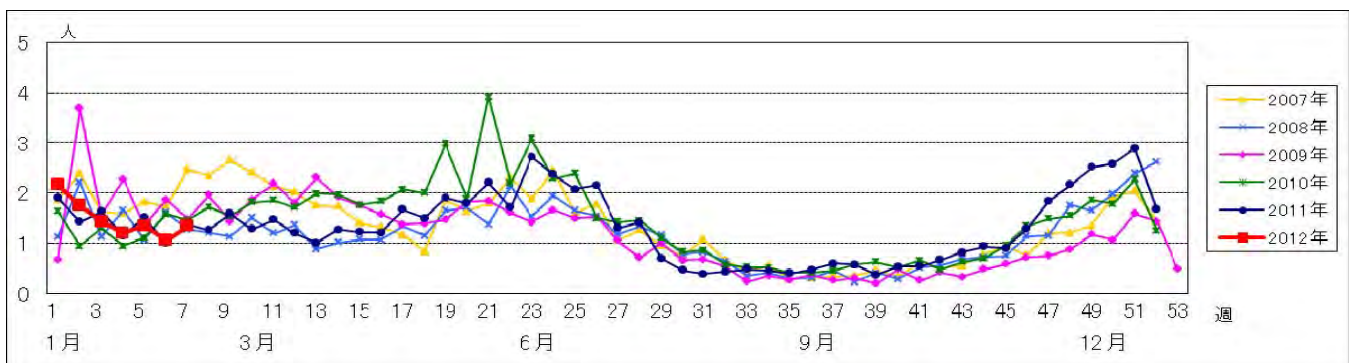
◆横浜市衛生研究所: 次亜塩素酸の詳しい使用方法

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/noro-yobou.pdf>



< 水痘 >

市内全体では、第7週1.34と落ち着いています。瀬谷区5.75で注意報レベルとなっています。



<性感染症>

1月は、性器クラミジア感染症は男性が16件、女性が15件でした。性器ヘルペス感染症は男性が7件、女性が1件です。尖圭コンジローマは男性1件、女性が1件でした。淋菌感染症は男性が13件、女性が3件でした。

<基幹定点週報>

マイコプラズマ肺炎が全国的に増加しており、注意が必要です。全国では、例年定点あたり0.2～0.6程度で推移していましたが、第1週1.10、第2週0.92、第3週0.98、第4週0.78と増加しています。横浜市でも増加がみられ、第1週では定点あたり2.00、2週1.00、3週2.33、4週1.33と、前シーズンの第1週0.00、第2週0.00、第3週0.00、第4週0.33を上回っています。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

<基幹定点月報>

1月は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症9件で、薬剤耐性緑膿菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:9か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:3か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

<ウイルス検査>

2月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点60件(鼻咽頭ぬぐい液58件、ふん便2件)、内科定点24件(鼻咽頭ぬぐい液)、眼科定点3件(眼脂)、基幹定点14件(髄液3件、鼻咽頭ぬぐい液9件、ふん便2件)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点はインフルエンザ(疑い症例を含む)50人、気管支炎6人、胃腸炎3人、伝染性紅斑1人、内科定点はインフルエンザ24人、眼科定点は流行性角結膜炎2人、急性結膜炎1人、基幹定点はインフルエンザ2人、上気道炎、肺炎、発疹、心筋炎、髄膜炎、伝染性単核球症、熱性けいれん重積、急性脳症各1人でした。

3月12日現在、小児科定点のインフルエンザ患者17人と気管支炎患者2人からインフルエンザウイルスB(以下B)型、インフルエンザ患者1人からインフルエンザウイルスAH3型(以下AH3型)とB型、気管支炎患者1人からアデノウイルス(型未同定)、内科定点のインフルエンザ患者6人からB型のウイルスが分離されています。

これ以外に遺伝子検査では、小児科定点のインフルエンザ患者24人からAH3型、インフルエンザ患者2人と気管支炎患者1人からB型、伝染性紅斑患者1人からヒトパルボウイルスB19型、内科定点のインフルエンザ患者16人からAH3型、基幹定点の急性脳症患者1人からAH3型の遺伝子が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

【 検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

2月の感染性胃腸炎関係の受付は、基幹定点から菌株受付が35件、定点以外の医療機関等からは1件あり、腸管出血性大腸菌(O157:H7、VT2)、パラチフスA菌、サルモネラ(*S.Enteritidis*、*S.Agona*、*S.Stanley*、*S.Thompson*、*S.ParatyphiB*、*S.Newport*、*S.Manhattan*、*S.Typhimurium*)が検出されました。

溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体受付は、小児科定点から6件で、A群溶血性レンサ球菌が6件検出されました。定点以外の医療機関等からは10件で、B群溶血性レンサ球菌が3件、バンコマイシン耐性腸球菌が1件、インフルエンザ菌が2件検出されました。

表 感染症発生動向調査における病原体検査(2月)

| 感染性胃腸炎 | | | | | | | |
|----------------|--|---------|----|------|------------|----|------|
| 検査年月 | | 2月 | | | 2012年1月～2月 | | |
| 定点の区別 | | 小児科 | 基幹 | その他* | 小児科 | 基幹 | その他* |
| 件数 | | 0 | 35 | 1 | 0 | 51 | 5 |
| 菌種名 | | | | | | | |
| 赤痢菌 | | | | | | | 2 |
| 腸管出血性大腸菌 | | | | 1 | | | 1 |
| パラチフスA菌 | | | 1 | | | 2 | |
| サルモネラ | | | 20 | | | 20 | 1 |
| コレラ菌 | | | | | | | 1 |
| 不検出 | | 0 | 14 | 0 | 0 | 29 | 0 |
| その他の感染症 | | | | | | | |
| 検査年月 | | 2月 | | | 2012年1月～2月 | | |
| 定点の区別 | | 小児科 | 基幹 | その他* | 小児科 | 基幹 | その他* |
| 件数 | | 6 | 2 | 10 | 14 | 5 | 17 |
| 菌種名 | | | | | | | |
| A群溶血性レンサ球菌 | | T1 | 3 | | 4 | | |
| | | T6 | 1 | | 1 | | |
| | | T4 | | | 1 | | |
| | | T12 | 1 | | 2 | | |
| | | T28 | 1 | | 2 | | |
| | | T B3264 | | | 2 | | |
| B群溶血性レンサ球菌 | | | | 3 | | | 9 |
| メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 | | | | | | 1 | |
| バンコマイシン耐性腸球菌 | | | | 1 | | 1 | 1 |
| インフルエンザ菌 | | | | 2 | 2 | | 2 |
| 不検出 | | 0 | 2 | 4 | 0 | 3 | 5 |

*:定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別):A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】

衛生研究所WEBページ情報

(アクセス件数・順位 平成24年1月分、電子メールによる問い合わせ・追加・更新記事 平成24年2月分)

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成24年1月のアクセス件数、アクセス順位及び平成24年2月の電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については総務局IT活用推進課から提供されたデータを基に集計しました。

1 利用状況

(1) アクセス件数 (平成24年1月)

平成24年1月の総アクセス数は、160,251件でした。主な内訳は、感染症68.2%、食品衛生11.4%、保健情報7.4%、検査情報月報2.7%、生活環境衛生1.8%、薬事0.9%でした。

(2) アクセス順位 (平成24年1月)

1月のアクセス順位(表1)は、第1位が「マイコプラズマ肺炎について」、第2位が「衛生研究所トップページ」、第3位が「感染症発生状況」でした。

マイコプラズマ肺炎は、年間を通じて常にアクセス件数が多く、国立感染症情報センターの報告によると、マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は、第49週(12月5～11日)以降減少傾向が見られていますが、過去5年間の同時期と比較して、かなり多い状態が続いています。

表1 平成24年1月 アクセス順位

| 順位 | タイトル | 件数 |
|----|------------------------|--------|
| 1 | マイコプラズマ肺炎について | 10,074 |
| 2 | 衛生研究所トップページ | 6,136 |
| 3 | 感染症発生状況 | 4,904 |
| 4 | 大麻(マリファナ)について | 4,312 |
| 5 | ロタウイルスによる感染性胃腸炎について | 3,733 |
| 6 | 感染症情報センター | 3,517 |
| 7 | クロストリジウム・ディフィシル感染症について | 2,493 |
| 8 | B群レンサ球菌(GBS)感染症について | 2,307 |
| 9 | サイトメガロウイルス感染症について | 2,265 |
| 10 | 水痘(水疱瘡)・帯状疱疹について | 2,235 |

データ提供:総務局IT活用推進課

厚生労働省が、一般の方々向けのQ&Aをホームページに掲載しました。

マイコプラズマ肺炎に関するQ&A 平成23年12月

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou30/index.html>

「感染症の発生状況」は、「インフルエンザ」や「感染性胃腸炎」等の流行期に入り、これらの感染症の市内の流行状況への関心の高まりから、アクセス件数が増加したものと思われます。

インフルエンザQ&A

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou01/qa.html>

(3) 電子メールによる問い合わせ（平成24年2月）

平成24年2月の問い合わせは、2件でした。

表2 平成24年2月 電子メールによる問い合わせ

| 内容 | 件数 | 回答部署 |
|--------------------|----|------------|
| 食品(マヨネーズ)について | 1 | 感染症・疫学情報課 |
| インフルエンザによる閉鎖依頼について | 1 | 教育委員会健康教育課 |

2 追加・更新記事（平成24年2月）

平成24年2月に追加・更新した主な記事は、11件でした(表3)。

表3 平成24年2月 追加・更新記事

| 掲載月日 | 内容 | 備考 |
|-------|-----------------------------------|----|
| 2月 2日 | RSウイルスによる気道感染症およびパリバズマブ(シナジス)について | 更新 |
| 2月 2日 | 横浜市インフルエンザ流行情報 3号 | 追加 |
| 2月 8日 | 感染症に気をつけよう(2月号) | 追加 |
| 2月 9日 | 横浜市インフルエンザ流行情報 4号 | 追加 |
| 2月16日 | 狂犬病およびリッサウイルス感染症について | 更新 |
| 2月16日 | 横浜市インフルエンザ流行情報 5号 | 追加 |
| 2月22日 | 衛生研究所の放射線量測定結果 | 追加 |
| 2月22日 | 髄膜炎菌性髄膜炎について | 更新 |
| 2月22日 | ヒトパピローマウイルス(HPV)と子宮頸癌等について | 更新 |
| 2月22日 | アメリカ合衆国のこどもの定期予防接種について | 更新 |
| 2月23日 | 横浜市インフルエンザ流行情報 6号 | 追加 |

【 感染症・疫学情報課 】